

## 1962 年インド・中国国境戦争後のジャワールハルルール・ネルー首相の外交政策

### PM Jawaharlal Nehru's Foreign Policy after the 1962 India-China War

本研究の目的は、1947 年 8 月の印パ分離独立により初代インド首相となったジャワールハルルール・ネルーが 1962 年 10～11 月のインド・中国国境戦争敗北後から 1964 年 5 月に死去するまでの間、どのように外交政策の軌道修正を図ったのかを明らかにすることである。

ネルー政権期の対中国外交を論じた先行研究としては、第一に、Maxwell [1972]・牛軍 [2021]・吉田 [2010] によるネルー・毛沢東間の国境線確定論争をめぐる認識の相違を説明した先行研究がある。第二に、ネルーのリベラリズム的な対中国外交を説明した先行研究がある。ネルーは中国との「平和共存五原則」という二国間で合意されたルールに基づいた長期的な友好関係の構築により、インドに対する好戦的な軍事行動を抑制できると考えていたが、中国がインドに対する強硬外交に転換した際の代替の対応策はなく、最終的に印中国境戦争により破綻することとなったとされる [広瀬 1981 ; Benvenuti 2020]。このような 1962 年印中国境戦争における敗北の経緯から、ネルー政権期は「インドの外交政策の中で最も理想主義的な段階」[Ganguly and Pardesi 2009 : 4] とも表現される。

しかし、ネルーは、印中国境戦争後、「外交の失敗」を受けて狼狽えるだけでなく、軍事費の拡大を図るとともに、それまで警戒していた米国へ軍事支援や戦闘機供与を要請するなど、「軍事力に裏付けられた平和共存外交」へと積極的に軌道修正を図っていた。また、ネルーは印中国境戦争敗北という危機下においても外交政策の独立性を堅持し、インドに戦闘機を供与する条件としてカシミール問題でパキスタンへの譲歩を迫る米国の要求に最後まで応じなかった。さらに、1962 年 10 月のキューバ危機によって一時的に親中国・反インドへ転じたソ連が中立外交へ回帰する可能性が高いことを読み切るなど、冷静に国際情勢を分析していた。

そこで、本研究では、ネルーが印中国境戦争敗北後、どのように外交政策の軌道修正を図ったのか、どのように大国との外交政策を展開したのかを明らかにしたい。

#### 参考文献

- 牛軍. 2021. 『中国外交政策決定研究』真水康樹（訳）、千倉書房
- 広瀬崇子. 1981. 「中印国境問題をめぐるネルー外交の論理—1950 年代インド非同盟外交に関する一考察」『アジア経済』, 22 (2), アジア経済研究所, 44-60
- 吉田修. 2010. 「インドの対中関係と国境問題」『境界研究』, №1, 57-70.
- Benvenuti, Andrea. 2020. “Constructing Peaceful Coexistence : Nehru’s Approach to Regional Security and India’s Rapprochement with Communist China in the Mid-1950s”, *Diplomacy and Statecraft*, 31 (1), 91-117.
- Ganguly, Sumit and Pardesi, Manjeet S. 2009. “Explaining Sixty Years of India's Foreign Policy”, *India Review*, 8 (1), 4-19.
- Maxwell, Neville. 1972. “India's China war”, Harmondsworth : Penguin Books